

スマホで育て家庭にお届け



農業ゲーム、作物輸出OK

ゲーム開発ベンチャーのエルディ(東京・目黒、宮崎尚登社長)は、月内にも農業ゲームを使った地方振興を始める。ゲーム内で育てた農作物が実際に家庭に届けられる仕組みで、地方自治体と連携して地域のイベントも紹介する。来年にはスマートフォン(スマホ)を通じて、海外の利用者にも日本の農産物を輸出する。ゲームを活用した国内農業の振興策として注目を集めそうだ。

まず福島県二本松市と連携する。同市特産の農作物をゲーム内で育成でき、収穫すると作物が地方の特産物などを紹介するエルディの「畑っぴ」

ベンチャーと自治体連携 地域イベントも紹介

ユーザーに届けられる。同市の「ちようちん祭り」のような地元の風俗や名所もゲーム画面上で再現して観光客誘致にも生かす。

同社がアプリ(応用ソフト)としてスマホ向けに配信するゲーム「畑っぴ」は、農作物を栽培することでポイントがたまり、実際の作物と交換できる仕組み。まず国内でゲームアプリを配信。2015年から外国語にも翻訳。東南アジアなどの富裕層の利用者を獲得し、日本の農作物をゲームを介して輸出する。